大森分会だより

編集長
菊池 弘至

楽しむ組合員活動新聞

PLEASANT OHMORI

組合活動とは笑顔になれる事、楽しみながら活動するのが一番です。

分会新聞４００号

先輩方から引き継いだ分会新聞も本号で４００回を迎えました。この節目に新聞のレイアウトを刷新し、より大森分会らしい新聞を目指し今後も楽しい記事作りを目指したいと思います。私編集長と東京土建組合との出会いは、約１０年前くらいに遡ります、ここでは１人の一組合員の立場で記事を書きたいと思います。

外に出ないと未来は変わらない

この町大田区中央へ住んでから十八年程経ちますが、当時は独身で友達も結婚し千葉県へ引っ越したので寂しい毎日を過ごしておりました。

若い頃は、お酒を呑むのが好きだった事もあり、仕事が終わってから地元の方々と話してみたい気持ちがあり、頻繁に地元の居酒屋へ足を運んでおりました。その中で大森分会に所属してます那須さんと地元の居酒屋さんで出会いました。

初めは怖そうな見た目だった事もあり、あちらの店で出会ったり、こちらの店で出会っても話す事もありませんでしたが、お互いカラオケ好きで歌も得意だったので、カラオケを通じて酒場で話すようになりました。私の職種はビルメンテナンスだった事もあり、東京土建組合に誘われ何の気なしに組合員となりました。その後…一～二年くらいは、群会議の参加も無く、那須さんへ組合費だけ払う時間が過ぎましたが、大森分会のお花見イベントがきっかけとなり、他の組合員の方々の顔を初めて拝見する事となりました。

お花見の二次会で大森分会の高村さんと出会い、大森分会の六役をやってみないか？　と誘われ暫く沈黙…思えば地元で呑んだくれてた時期に色々な方と知合い町内会だったり消防関係の集まりの方々を見ては楽しく呑んでる姿を羨ましく思ってたのですが、頻繁的な集まり等は、自分には向いてないと人から言われ、自分の心の中で魂の消化不良が…そうか今だ！

六役を承諾し自分の組合員生活が始まりました。その後、初めて群会議にも参加し同じ７群の方々と知合いました、同時に当時六役になったメンバーも四十代と年齢も近く、集まりは頻繁でしたが辛さは無く、むしろ楽しく役員生活も過ごすようになりました。

右も左も分らない時期がありましたが、次第に何年か土建ライフを過ごす中で慣れて行き、専門部会に参加すると大森以外の分会の方々とも知合い、大勢の人々が関わっているのだと実感。中でも西蒲田に住んでた時代の大家さんが多摩川分会の西塔さんだったのには驚きでした。

人と人とが繋がる

新加入者歓迎屋形船

後継者対策部のイベントが８月３日（土）に行われ、屋形船交流会が開催されました。９分会から３９人が参加し、大森分会からも数名が参加し、楽しい一時を過ごしました。

コラム大森（編集後記）

先日、風邪なのか食当たりなのか分りませんが、夜中にお腹が痛くて目が覚めました。起きると真夏の熱帯夜なのに体が寒くて凍える程なので、熱い湯ぶねに入り体を暖めてから寝ましたが、再び目が覚め一晩に２回も風呂に…熱はあるし、その後４日間程度は下痢が続きました。人手不足で仕事は休めません。

はがき要請行動の略文例

私は東京で〇〇（※建設業と分かる職種）をしています。私達の「命の綱」建設国保の補助金は、現行水準を確保して下さい。

※簡単に略文　縦書き宛名面と天地逆×、鉛筆×…ボールペンで記入。住所・氏名お忘れなく。印刷・スタンプ×…全て手書き。４枚綴りのはがきは切離さないで提出。期限は９月群会議の場です。

全ての組合員が身近に出来る要請行動。全員で取り組まないと補助金貰えず保険料が値上がり。